

令和6年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書(後期)

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目的	目標(評価指標)	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
小中一貫教育	義務教育9年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	① 乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	B A	専門教科の乗り入れ授業や、ICT機器を活用した授業実践及び授業改善を行うことで学力の向上を目指した。家庭学習や読書の習慣についても指導を継続した。	教員の専門性を生かした授業を行うことができている。今後も家庭学習記録表等を活用しながら、家庭学習や読書活動の充実を図る。
		② 小中合同行事を実施することにより、小中学生の交流の場をつくる。	A A	計画していた小中連携行事を予定通り実施でき、交流の場をもつことができた。	来年度も児童会・生徒会を中心に、創意工夫を生かした行事や交流活動を行う。
		③ 9年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A A	地域の方々の協力を得ることで、多様な学習活動ができ、その成果を郷土学発表会や一人一研究発表会で披露することができた。	地域コーディネーターを活用し、来年度も充実した「郷土学」を実施できるよう計画を見直していく。
	学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中合同の行事は、楽しそうで、互いに優しい心や元気さが増すと思う。各学年に良い結果をもたらしている。 ○ 乗り入れ授業や郷土学など、児童生徒には恵まれた学習環境ではあるが、先生方の変換さが伺える。 ○ 一貫教育を通して、個々の学力アップに繋がると良い。 ○ 小中学校の先生方が、家庭学習や読書活動の充実を、共通意識を持って継続性・系統性に着目して取り組んでいることが良い。 ○ 小規模校である日吉ならではの教育が推進されることにより、将来、郷土愛に満ちた青年に育つことを願う。 ○ 地域ボランティアの高齢化等で人選が大変だとは思いますが、よく頑張っている。 ○ 日吉ならではの学習ができていると思う。今後も続けていただきたい。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中合同研修会などで児童生徒に身に付けさせたい力を共有し、共通理解のもとで共通実践を行う。 ○ 小中連絡会等を活用し、児童生徒に関する情報交換を行い、健全育成を図る。 ○ 小中合同の行事については、今後も見直しや改善を行いながら、継続して実施していく。 ○ 地域ボランティアについては、様々な情報を入手しながら、新たな人材の発掘に努める。 	

分野	目的	目標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
コミュニティ・スクール	地域に開かれ信頼される学校づくり	④ 学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	A A	委員からの意見を参考に、取り入れられることから実行していくように心掛けた。	学校運営協議会でいただいた意見を、「さらに良い学校に」という視点で、学校教育に反映する。
		⑤ 学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	A A	6月の参観日・教育懇談会の案内を全戸配布するなど、学校行事等の案内を積極的に行うことができた。	来年度もより多くの教育活動を公開し、気兼ねなく参観できる雰囲気づくりに努める。
		⑥ 教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	A A	学校だよりの全戸配布を実施し、ホームページの更新もほぼ毎日行うなど、内容の充実も図った。	今後も、学校だよりや各種通信、ホームページ、ケーブルテレビ等を活用しながら、情報の発信を行っていく。
	学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観日を、もっと地域の方々に見てもらえたらいいと思う。 ○ 中学校の空き缶（アルミ缶）回収も、もっと宣伝すればよい。 ○ 授業参観日の参加者の数も減少しているので、1日自由参観を行う機会を考えてみてはどうか。 ○ 学校運営協議会での熟議は、意見が出しやすく、テーマへのアプローチがしやすい。今後、テーマにもよるが、生徒にも参加してもらい、生の声を聞くのも一方法かもしれない。（先行事例あり） ○ 学校側からの一方通行で終わらないような発信になることを願う。 ○ 意見をすぐに取り入れて実行されていることを感じられる。 ○ 毎日のホームページの更新も良い。 ○ デジタルとペーパーの併用で学校を知ってもらえるようにしていることが良い。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会でやっている熟議については、テーマの選定や参加者について検討を行い、実践に繋がる話合いが行えるようにする。 ○ 参観日については、多くの保護者や地域の方々に参加してもらえるよう呼び掛けを行う。 ○ 今後もホームページやケーブルテレビ、学校だより等を活用し、日々の教育活動の情報発信を積極的に行う。 	

分野	目的	目標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
地域学校協働本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦ 地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A A	総合的な学習の時間、郷土学、見守り隊、放課後子ども教室など、多くの方の協力を得ることができた。	活動がマンネリ化しないよう、今後も地域コーディネーターと連携し、支援活動の充実と地域人材の発掘に努める。
		⑧ 学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A A	ホームページ、学校だよりやボランティア通信、ケーブルテレビ等で情報提供を行った。	様々なメディアを活用し、今後も、学校支援活動の情報を積極的に提供できるように努める。
		⑨ 地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A A	地域コーディネーターと学校行事に関する情報共有を行い、計画的に準備や調整を行うことができた。	学校行事等の計画を地域コーディネーターと綿密に協議することで、周到に準備や活動ができるようにする。
	学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちはいろいろな体験ができていて感謝している。 ○ 日吉中学校と広見中学校の交流を図る機会があると良い。 ○ 地域ボランティアが進んで協力しているので、教育活動が充実している。今後もこの関係性が継続できることを願う。 ○ 下鍵山で行われた防災訓練では、生徒たちがたくさん参加していました。このような交流ができるような事業ができるといい。 ○ 地域と関わることで、「だれかのために」と考えられる大人に成長することを願う。 ○ 地域に情報公開することで、もっと協力を得られると思う。 ○ 地域には、現在の職業だけでなく、いろいろな専門家がいるので、その人たちの意見も参考にしてみてもどうか。 ○ ケーブルテレビなどは、地域の方々も視聴されているので、情報提供の方法としてとても良い。 ○ 地域の多くの方が少しずつでも学校に関わりを持っていることが良い。 		学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域コーディネーターの協力を得ながら、地域から学び、地域に貢献できる活動が実施できるようにする。 ○ 地域ボランティアの発掘に力を入れ、郷土学などの学習が、広がり、深まる学習となるようにする。 ○ 児童生徒の教育に関わっていただいている方々との関係を深め、信頼関係を築いていく。